

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870104811		
法人名	有限会社 ライフサポートさくら草		
事業所名	グループホーム 軽井沢		
所在地	松山市南斎院町乙19番地5 (電話) 089-924-5655		
管理者	二宮 茜		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 3 月 17 日	評価確定日	平成 20 年 4 月 17 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 3 月 3 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 11.3 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 3 月 3 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護 1	2 名	要介護 2	5 名
要介護 3	6 名	要介護 4	4 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 81 歳	最低 56 歳	最高 95 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

なだらかな坂道を登った、閑静な住宅街にある。居間の吹き抜けは開放感があり、弾んだ会話が聞こえ、和室で寛ぐ姿もみられる。デッキからは高校のグラウンドや総合公園が見渡せ、美しい風景に安らぎを感じることが出来る。運営者は、地域と一体になるよう率先して交流を深めるための取り組みをすすめている。利用者は、部活動の高校生に親しみを込めて優しく声をかけている。「心の視線を合わせ」同じ目線で支援する姿は利用者の笑顔・穏やかな表情からもうかがえる。職員は連携をとりながら相談や助け合いをスムーズに行えている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

改善計画シートは作成していない。運営者は、育成が不可欠であることを理解しており、今後さらなる職員育成の機会の確保が求められる。地域との関わりが改善課題にあがったが、日々取り組むことで付き合いの輪が広がっており、利用者がホームを自分の居場所として暮らし続けられるよう努力を重ねている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

全職員で取り組み、理解の難しい項目については運営者に確認し、納得しながら進めている。評価項目のねらいや活用方法をより一層深く学習して今回の自己評価に取り組むことを期待する。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

家族から相談を受けている事柄について、専門家によるアドバイスを頂くための有効な会議を計画している。運営者自身が民生委員であり、地域・行政との関わりやメンバー確保もスムーズに進められている。参加者から様々な意見を出してもらい、ケアに活かしている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族にホーム便りや手紙を届け、報告している。遠慮なく話せる雰囲気づくりに努め、家族の率直な意見や疑問点を電話や面会時に聞くことは、ホームにとって大切な宝であると捉えている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

開設前より町内にもホームの情報提供を行い賛同を得ており、見学者もある。運営者は町内の体育部長も務めているため、地域と密に繋がっている。近所の方が立ち寄って、玄関前のいすでひと息ついたり日向ぼっこすることもある。子ども会と一緒に催した夏祭りでは地域の方も参加され、交流の輪が広がっている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム軽井沢

(ユニット名) ぼんかん

記入者(管理者)
氏名 加藤鋭一

評価完了日 平成 19 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域に根付いた介護が出来る様、地域交流を大切に考えその人らしい生活が出来る様支援、努力している。 (外部評価) 「心の視線を合わせ」「ご自身の居場所を確信」できるように、運営者や職員は質の向上に努めている。地域の中で安心して生活することも軸と考え、取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 一人一人が理念を理解し仕事に努めるよう努力している。 (外部評価) ユニット会議で理念の内容について話し合い、意見を出し合っている。利用者が落ち着いた不安のない生活が送れるよう、言葉かけや態度にも気をつけながら、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入居時、見学者パンフレットをもらい説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物に出かけた時あいさつや話をしたりしている。		近隣の方のほうから立ち寄って頂ける雰囲気作りをしていく。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の小中学生との交流がある。地域の奉仕活動にも参加し、納涼祭には地域の人にお声がけし参加している。 (外部評価) 近所に買い物に出かけ、レジで「待っていたよ」と声をかけてもらうこともある。運営者は町内の体育部長や民生委員も務めており、地域との付き合いが深い。お花見や、子ども会と一緒に夏祭りなど、行事での交流もある。		今後、積極的に参加し地域交流をしていく。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の貢献としてできる事を考えているが、まだ取り組みまでは至っていない。		地域に根付いたホームとして地域貢献に対して取り組むよう進めていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の外部評価に玄関に置き指摘を受けた。ことに関しては見直し改善を出来るように努めていく。 (外部評価) 自己評価は全職員で取り組み、理解の難しい項目については運営者に確認し、納得しながら進めている。改善点は職員にも伝達し、実践につなげている。	※	具体的に評価を活かせる状況をつくっていきけるようにしていく。 評価のねらいや活用方法についての勉強会を重ねていくことを期待する。また、評価結果を点検し、改善に向けた取り組みをすすめるためにも改善計画シートを作成することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月に一度開催し地域との意見交換を行い、ホームの状況を伝えている。 (外部評価) 家族から相談を受けている事柄等についてより一層丁寧に答えていくために、運営推進会議で専門家によるアドバイスを計画している。外部評価報告や改善点についても討議している。行事内容に行き詰った時には、参加者からヒントを得ることもでき、有効に進められている。		ホームの状況を伝え発展につなげていく。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) ホームの状況を知ったうえで、連携をつくりサービスの向上につとめる。 (外部評価) 課題解決のために市担当者に相談に行くことも多い。運営推進会議においても行政の参加者から得られる情報は大きい。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) ホーム管理者が研修を受け、理解していく。		職員一人一人が把握できる様勉強会を開く。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング等で議題をあげ勉強している。日々の利用者の声や表情、身体状態等に注意を払っている。		虐待について理解し防止につとめる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時十分な説明を行い理解、納得の上入居されている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の意見を日々に受け取るように、反映できるようにしているが現状は特にない。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 定期的に報告し、面会に来られたときケース記録、日誌等にて家族へ報告している。 (外部評価) プライバシーの守られたホーム便りには日頃の生活ぶりや行事内容を掲載し、家族に届けている。面会時には声をかけ、利用者の状況をきめ細かく伝えている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来られた際には何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛け、出された意見には話し合いを持ち反映させている。 (外部評価) 運営者は、家族の率直な意見を傾聴するよう心がけている。面会時や電話で出された家族の意見や疑問点はホームにとって大切な宝と捉えており、前向きに受け止め、運営に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) コミュニケーションを図るように努め要望や意見を聞くように心掛けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務時間を取り入れ柔軟に勤務を変更できるようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動はよく検討した上でやっている。 (外部評価) 各ユニットの職員配置は決まっているが、全職員が利用者一人ひとりを把握し、状態も大まかに理解することの大切さを運営者は肝に銘じている。異動があっても利用者の不安を最小限に抑えており、利用者や家族への配慮がうかがえる。		利用者、職員共、良い方法で職員の配置を考え配慮していく。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を受ける機会を徐々に増やしている。 (外部評価) 研修内容や日時は全職員に回覧され、希望者は休みを利用して参加することができる。運営者は職員育成の重要性を理解しており、働きながら学ぶ職員の意識向上を願っている。研修後には参加者が伝達報告を行っている。	※	現状維持に努め自ら発言するような活発な職場作りが大切だと思われる。 ホームのケアサービスの質の向上のためにも学びの機会を前向きに計画・実施することが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 夏祭り等の行事の際には、母体法人内の他のユニットと利用者・職員とも、交流を通じている。しかし、お互いのサービス向上を目的とした勉強会や見学会などは、実施されていない。	※	知り合いなどを通じ積極的に交流がもてるように努めたい。
			(外部評価) 運営者はいくつかのグループホームとのネットワークを築いているが、職員間での交流はほとんどない。	※	職員のケア向上や育成のため、職員レベルでの同業者との交流に積極的に取り組み、相互研修や事例検討会を進めていくことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) シフトを決める際、職員の希望休を優先してくれている。昼食後、職員が順番に利用者さんと離れ休憩の取れる場所が確保されている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修や資格習得に積極的に取り組み研修費用も負担しており、職員の向上心の上昇を手助けしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 見学や相談時には、十分な時間をかけ本人様の不安や困りごとに対して、本人様が納得いくまで傾聴し本人様の意思を尊重している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談時に十分な時間を取り、本人様と家族様の体験や想いを傾聴し、信頼関係を築き家族が、真に求めているものを理解するよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様・家族様より相談を受けたときの実情や要望をもとに、最優先すべき課題より対応するよう努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前の見学は随時受け付けている。また、入居時には馴染みのものを持ってきて頂くようにしている。そして入居間もない頃は、ご家族に頻繁に来訪して頂ける様働きかけている。 (外部評価) 円滑なサービス利用のため、入居前に本人・家族を訪問し、見学をすすめ、安心・納得してもらってから入居に移行するよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 支援する側、される側という意識を持たず人生の大先輩である利用者様に教えて頂く事も多く、一緒に和やかな生活が送れるような関係を築いている。 (外部評価) 職員の優しさ・誠実さ・思いやりが利用者に伝わり、人生の先輩として経験豊富な利用者から生活の知恵など教えてもらう場面が多々ある。歌と一緒に口ずさんだり、明るい笑顔から元気ももらっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事に参加して頂き、共にその雰囲気を楽しんでもらうようにしている。また、家族様の来訪時には、必ず声掛けし心の内を共有できるようにして、一緒に支えていける信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事に参加して頂いたり、気軽に来訪して頂ける雰囲気作りをしている。遠方の方の場合は時々近況報告をし、喜びを共有するよう努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会の方には居室でゆっくりして頂ける様に努めている。また馴染みの場所、例えばよく買い物に行っていたスーパー等には、職員が声掛けさせて頂き一緒に出掛けるように努めている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食卓の座席位置に配慮したり、レクレーションを通じお互いの関係が深まるよう、職員が調整役を努めるなどの支援を行っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要に応じて契約終了後もいつでも来訪・相談して頂ける雰囲気作りを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員は利用者様の思いや要望を日々の関わりの中で、注意深く見守ることによりつかむよう努めている。また、家族様からの意向や希望も聞き取り、ケアプランに反映するように努めている。 <hr/> (外部評価) 利用者同士の会話や、職員と交わす会話の中から思いや意向を把握することに努め、把握した情報を職員間で共有して介護計画にも活かしている。家族からは面会時等に情報を得られるよう、話しやすい雰囲気づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人様や家族様からの聞き取りにより、生活歴の把握に努めている。	※	聞き取りの際、センター方式などを活用してもっと詳しく正確に把握するように努めたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 基本的には毎日の食事・バイタルサイン・入浴・排泄を把握することにより、一人ひとりの体調・生活習慣に合わせて一日が過せるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様・家族様より意見を聞き、職員全員でカンファレンスを実施し、それに基づき介護計画を作成している。 (外部評価) ユニット会議で職員の気づきと重ねあわせながら作成している。生活の中で得られた気づきや意見、利用者や家族の要望を聞きながら、利用者本位の介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の見直しは基本的には3ヶ月毎に、また利用者様に変化が生じた場合は、受診等により専門のスタッフの意見も踏まえ随時見直しを実施している。月1回のミーティングには休みの職員も出席し、活発な意見交換が行われている。 (外部評価) 入居後、2週間で見直しを行っている。その後は3か月を目安に見直ししている。介護度が変わったり状態が変化した時には、その都度検討し、見直ししている。家族の要望も大切なポイントとして捉えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一人一人介護記録を作っており会話やその日の状態を記録している。記録をもとに介護計画を作成している。		誰が見ても分かるよう日々の記録が反映できるように心掛ける。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) その時々要望に応じて、提携している病院への受診。家族さんの希望する病院への受診と支援している。 (外部評価) 同法人が、ホームに併設してデイサービス事業を展開している。特別な外出支援として墓参りや観劇などにも前向きに柔軟に支援できるよう努力している。		柔軟に行動出来るよう希望を叶えるように対応していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防訓練に毎年参加している。春には集会場を利用し花見を行った。		積極的に参加出来るよう心掛けていきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今までは必要なかったが、今後は活用できるようにしていきたい。		今後サービス利用される事があれば柔軟に対応していく。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 代表者がセンターとの掛け橋となり連携協働出来る体制を作っている。		センターと話し合ったうえ提供できるようにしておく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族さんが希望するかかりつけの病院になっている。定期的に往診もしてもらっている。 <hr/> (外部評価) 協力医療機関の訪問診療が毎日ある。利用者の主治医または協力医療機関において必要な治療等が受けられるよう支援することを利用者・家族に説明し、同意を得ている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 心療内科受診時に相談にのってもらい、指示や助言をもらっている。		いつでも希望を叶えられる体制にしておく。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 定期的に看護師に来てもらい健康管理をもらっている。		連携病院 2 4 時間対応のためいつでも連絡でき最大限活用する。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時にはお見舞いに行き情報交換をしながら早期退院できるようにしている。連携体制はしっかりできている。		日頃からの健康管理が必要。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 家族、本人の意志の確認をする為の書類を作成している。希望をとり署名押印をして頂いている。提携病院もあり医者と相談することもできる。 <hr/> (外部評価) ターミナルケアの指針を作成しており、ターミナルケアについて十分な説明を行い、同意を得ている。現在ターミナルの段階にある方がいるが、協力医・看護師等と連携を取り、家族にも確認を取りながら落ち着いて取り組んでいる。		希望意志を取り入れその人にとってどのような終末期を迎えたいのか、迎えて欲しいのか全員でわかり合い協力していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 提携病院と提携し自分達的那个人にとってどこまでして欲しいのか希望を叶える為職場が団結し介護しているか本当に希望されているか見極めることが難しい。	※	その人にとっての生き方・ホームでのあり方を見極め自分達に出来る事を最大限に発揮できるよう努力していく。希望されている事は何なのか見極めよ。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入居者と話し合いを十分にして本人の不安や混乱しないよう職員がフォローしている。		多種多様なサービスも理解し提供をしていく。
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ユニット会議で利用者への関わりかたや声のかけかた等気をつけて対応出来るようにしている。 (外部評価) 契約書に権利・秘密保持を示し、責任を確約して遵守している。同意書には署名、捺印をいただいている。利用者一人ひとりの尊厳や誇りを大切にしている取り組みが見られる。	※	職員一人一人が言葉、対応に注意し心に留めておかなければならない。そのためお互いが注意できる関係に余り雰囲気作りをしていく。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) その人その人であった声かけをし入居者が自分で決める場面を作っている。		職員の都合にならない様、利用者の声に耳を傾け希望を叶えられるよう支援していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者優先のペースに合わせる様に支援していく。 (外部評価) ターミナルであっても利用者のペースを尊重し、体調に配慮しながら関わっている。できることは何か、援助すればできることは何か、などについて職員がその人らしさを把握したうえで見守り支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) ・行きつけの美容院がある人には行きつけの美容院に行けるようにしている。 ・また月に一度美容師の人に来て頂きホームでカット、毛染め等してもらっている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の野菜や果物をメニューに取り入れ盛り付けや色どりを工夫している。また、調理にも一緒に参加して頂味見などもしてもらっている。食器洗い、食器拭きもしてもらっている。 (外部評価) 「今日の食事も美味しい」などと話しながら、自分の故郷の話、昔話と楽しい会話が続いている。準備や片付けも1つの流れとして自然に行っている。		能力に応じて少しずつでも食事での楽しみを見つけ出せるよう支援していく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物やおやつなどの好みの物をお出ししている。タバコを吸われる方には、吸いすぎに注意しながら喫煙してもらっている。		身体の科目にならない様取り入れていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄、失禁時はプライドを傷つけないようにさりげなくしている。 一人一人の排泄パターンを把握しており排泄してもらっている。		スムーズに出来るようになっていく。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴表を作成しており感覚があれば声掛けし入浴してもらっている。毎日入浴したい人には希望にそなえられるように入浴してもらっている。 (外部評価) 「今日は息子さんが来られますよ」、「お医者さんが来られる日ですよ」など、タイミングを見計らってスムーズに心地良く入浴できるよう声かけにも配慮しながら支援している。一週間に2回は入浴できるよう支援している。		タイミングのつかみ方や声掛けの仕方を職員が統一できるようにする。 楽しく入浴できるよう支援していく。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) その日の身体の調子を見て、なるべく居室に閉じこもりがちにならないようにお手伝い買い物等して頂き離床時間を作っている。		日中の活動量の確保をしていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人一人に日課を作って出番があるように支援している。 (外部評価) 懐かしい音楽で盛り上がることや風船バレーで汗をかくこともある。各居室の掃除やモップがけも楽しみながらしている。男性利用者にゴミ出しをお願いするなど役割分担している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持金は事業者預かりにさせてもらっているが買い物や外出の際には、能力に応じて管理してもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 希望にそえない事もあるが、出来る限り希望に応じた対応をしている。 (外部評価) 総合公園に出かけてかざぐるまを作り、居室に飾っている。日常的な散歩では、近所の方と挨拶を交わすことも多い。道の駅などへのドライブ、ショッピングセンターへの買い物にも出かけ、気分転換を図っている。		スムーズに対応できるようにしていく。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 希望があれば外出することもある。 利用者と家族が外出することは少ない。 計画を立てて、実行できるように努めている。		利用者、家族、職員の交流の場を増やしていきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて、手紙や電話したり出来るように支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問された際には挨拶、声掛け対応をし、リビングや居室にて、居心地よく過ごして頂けるよう、雰囲気づくりを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 生命に危険がなく改善できる限りのことはスタッフで話し合い拘束しない工夫をしている。		生命に危険がある場合のみ家族の了解了承を得て拘束を行うようにしている。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は常に鍵を開けている。 夜間は遅出帰宅時に施錠する。 (外部評価) 自由に出入りできるよう鍵はかけていない。外出傾向のある利用者の場合は一緒に出かけ、納得いくまで気長く対応するなど、安心安全に過ごせるよう考えている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は最低二時間ごとに所在や様子を確認し利用者の状況を把握することができている。 夜間は見回りを行い利用者の安全を確認している。		安全面に十分に配慮した上で所在確認、様子観察をしていかなければならない。予期せぬ事への配慮をした上で安全確認をする必要がある。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態に合わせた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット、事故報告書を記録しておりユニット会で予防対策について話し合いを行っている。		一人一人の行動、目配りを心掛ける。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応のマニュアルはあるが救急法を研修や定期的な訓練は行っていない。		施設内で緊急時の対応など今後取り組んでいきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域主催の避難訓練に参加し災害マニュアルを記載している。 (外部評価) 運営者は防火管理責任者と防災士の資格を有している。消防署とも密に連絡が取れている。年に1回の町内自主防災会にはホームも参加し、改善点・反省点を学んでいる。	※	日頃より注意し心掛けている。 夜間も想定しての非常災害訓練を、専門家のアドバイスを仰ぎながら早急に実施することを望む。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 問題が起きた際できるだけ早く連絡報告を行い対応できるよう努めている。		リスク対応していくため必要なものを話協力をお願いする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段と様子が違うときなどバイタルチェックを行い様子を見ながら状態によっては往診依頼をしたり受診につなげている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の薬ケースに処方箋をいれており職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更があった際には申し送りにおいてはすべての職員が把握できるようにしている。		変化があれば即医師に連絡し対応していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 散歩体操などの運動を呼びかけたり食材を工夫したり水分を多く飲用してもらうなどしている。		便秘時には緩下剤にて対応。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後声掛けしたり介助にて口腔ケアを行っている人もいるが利用者全員は行っていないので声掛けを行ってたり能力に応じて行っていただく。		完全を目指して取り組みをしていきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人に合わせた量をお出しし、介助の必要の人には職員がついて食べて頂いている。食事摂取量水分摂取は記録記入し確認している。 (外部評価) 一人ひとりの食事記録をとっている。嗜好を把握し、季節感のあるバランスの取れた献立をたてている。水分量が不足しないよう気をつけている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成しており職員、利用者の外出後には手洗いうがいを徹底に行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 職員一人一人が清潔保持に努めている。食材は買い込まず新鮮で安全な食材を使用できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) スロープを設置しています。玄関には入居者の方の活動を掲示板にお知らせしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 道路沿いの窓にはカーテンブラインドを設置している。 (外部評価) 昼間利用者が和む居間は吹き抜けになっていて、明るく開放的である。畳の部屋でくつろぐこともできる。調理の匂いや音を感じながら生活できる。右利き、左利きと、どちらの方も使いやすいよう配慮したトイレがある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 畳コーナーソファを設置している。		くつろぎ空間の確保、ゆっくりできる場所の確保に努めている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の好みの物昔から使い慣れた家具等持ってこられている。必要なものはその都度購入している。 (外部評価) 家族と一緒に過ごした写真が飾られ、思い出話に花が咲く。好みの洋服等も家族の協力を得て用意されている。一つひとつがその人にとって宝物であることがうかがえる居室となっている。		本人の希望も叶えられるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 温度計湿度計を見て換気している。居室等掃除する際には窓を開けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者の状態変化に合わせて福祉用具を利用している。		ホーム内は狭く一人一人の身体機能を活かされていないので今後の課題として話し合っていきます。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人一人のわかる力を活かし混乱、失敗を抑えられるよう対応している。		自尊心を傷つけないように行っている。
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダに出やすいようウッドデッキがある花や野菜が植えられる場所がある。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	入居者の要望を引き入れていると思える。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	午前、午後のおやつ時には一緒にお茶や会話をしたりしておりレクリエーションをしてすごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ペースがつかめない方はスタッフが気をつけて接している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔や笑い声があり元気がない方もスタッフの声掛けにより笑顔になれる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	天気の良い日などはドライブに出かけたり外食、買い物などに外出している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎朝のバイタルチェック、2週間に一度の体重測定異変時には主治医の指示の下対応している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望には出来るだけ応じている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時には入居者の生活健康状態をお話している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	家族や友人知人のかたが面会に来られている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	たまにグループホームについての来客問い合わせの電話がある。
98	職員は、活き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員同士の連携もとれており明るく働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	不満があるときは入居者にお聞きし出来る限り対応している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時には感謝の言葉を掛けていただいています。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

デイサービスと入居者との交流がある。併設されているユニットの入居者との交流。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム軽井沢

(ユニット名) さくらんぼ

記入者(管理者)
氏名 坂東昌子

評価完了日 平成 19 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域に根付いた介護ができるよう地域交流を大切に考え、その人らしいせいかができるよう、支援できるよう努力している。 (外部評価) 「心の視線を合わせ」「ご自身の居場所を確信」できるように、運営者や職員は質の向上に努めている。地域の中で安心して生活することも軸と考え、取り組んでいる。		今後もその人がその人らしく生きていけるよう努力、支援していく地域に根ざした。介護できるよう支えていけるよう努めていく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を理解できるよう、目に留まる場所におき、職員1人1人が理念を理解し仕事に努めるよう努力している。 (外部評価) ユニット会議で理念の内容について話し合い、意見を出し合っている。利用者が落ち着いた不安のない生活が送れるよう、言葉かけや態度にも気をつけながら、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		今後も日々取り組みが出来るよう、理念を念頭におき、仕事を行うようにする。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入居時、見学时、パンフレットをもらい説明を行っている。理解を得たうえで入居につなげている。		今後も理解していただけるよう努めていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) あいさつを職員一同心掛け気軽にお話できるように、立ち寄ってもらうように努めていくが、まだまだな現状がある。		入居者、職員を理解して頂きながら気軽に立ち寄っていただける雰囲気作りをしていく必要がある。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) ホームの代表者がお祭り等に参加したり地域の行事も出来る限り、入居者と共に参加をしている。 (外部評価) 近所に買い物に出かけ、レジで「待っていたよ」と声をかけてもらうこともある。運営者は町内の体育部長や民生委員も務めており、地域との付き合いが深い。お花見や、子ども会と一緒に夏祭りなど、行事での交流もある。		機会があれば、積極的に参加をし地域の交流をしていく。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域への貢献としてできることを考えているも、まだ取り組むところまでに至っていない。	※	今後、地域に根付いたホームとして地域貢献に対して取り組むようすすめていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の外部評価に玄関に置き、指摘を受けたことに関しては見直し改善できるように努めている。 (外部評価) 自己評価は全職員で取り組み、理解の難しい項目については運営者に確認し、納得しながら進めている。改善点は職員にも伝達し、実践につなげている。	※	もっと具体的に評価を活かせる状況をつくっていきけるようにしていく。 評価のねらいや活用方法についての勉強会を重ねていくことを期待する。また、評価結果を点検し、改善に向けた取り組みをすすめるためにも改善計画シートを作成することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度開催し、地域との意見交流を行うと共にホームの状況を伝えている。 (外部評価) 家族から相談を受けている事柄等についてより一層丁寧に答えていくために、運営推進会議で専門家によるアドバイスを計画している。外部評価報告や改善点についても討議している。行事内容に行き詰った時には、参加者からヒントを得ることもでき、有効に進められている。		今後も定期的に取り組みホームの状況を伝え、発展につなげていく。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議でホームの状況を知って頂いたうえで、連携をつくりサービスの向上にもつなげている。 (外部評価) 課題解決のために市担当者に相談に行くことも多い。運営推進会議においても行政の参加者から得られる情報は大きい。		今後もサービス向上に努めていく。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) ホームの管理者が研修を受け理解をしている。		職員の全員が理解できるように勉強会を開き理解したうえで活用していく。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き、虐待について理解し、注意を促し、日々の言葉使いから注意し防止している。		虐待について、もっと理解し防止に努める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ホームの代表者が入居時に十分に説明を行い契約をしている。		今後も継続する。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の意見を日々受け入れるよう反映できるようにしているが、現在は特にではない。		利用者との信頼関係を築き日々反映できるように意見がスムーズに出るように取り組んでいく。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月に1回手紙を書くか、ホームの新聞を送ることで報告させて頂いている。金銭管理（おこづかい状況）については請求書と共に送り、わかるようにしている。面会時にも状況報告している。 <hr/> (外部評価) プライバシーの守られたホーム便りには日頃の生活ぶりや行事内容を掲載し、家族に届けている。面会時には声をかけ、利用者の状況をきめ細かく伝えている。		今後も継続する。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置しており、いつでも意見を取り入れるようにしている。面会時にも意見交換できるよう、お話をさせて頂いている。 <hr/> (外部評価) 運営者は、家族の率直な意見を傾聴するよう心がけている。面会時や電話で出された家族の意見や疑問点はホームにとって大切な宝と捉えており、前向きに受け止め、運営に反映している。		家族の意見が反映できるよう意見箱を利用しいつでも窓口うつくると共に職員も利用者だけではなく家族とも信頼関係を築いていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや日々の申し送り時に意見交換できる場をつくっている。		今後も継続するうえで、活発な意見交換できるようにしていく。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務希望を取り入れ、柔軟に勤務を変更できるようにしている。		臨機応変に勤務を変更できるようにしていく。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員が配置される時に、両ユニットを体験したうえで、ユニットに配置するようにしている。入居者全体を見たと、顔を覚えてもらいダメージをふさぐようにしている。 (外部評価) 各ユニットの職員配置は決まっているが、全職員が利用者一人ひとりを把握し、状態も大まかに理解することの大切さを運営者は肝に銘じている。異動があっても利用者の不安を最小限に抑えており、利用者や家族への配慮がうかがえる。		職員にとっても、利用者にとってもいい方法で職員の配置を考え配慮していく。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を受ける機会を徐々に増やしている。 (外部評価) 研修内容や日時は全職員に回覧され、希望者は休みを利用して参加することができる。運営者は職員育成の重要性を理解しており、働きながら学ぶ職員の意識向上を願っている。研修後には参加者が伝達報告を行っている。	※	職員も自分から向上し、努力するよう研修に参加し、自ら発言するような活発な職場作りが大切と思われる。 ホームのケアサービスの質の向上のためにも学びの機会を前向きに計画・実施することが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域の近くにある施設への行事参加、同業者との交流は案内状等送られてきたり、施設見学をすることで互いを分かり、よりよいサービスの提供をできるようにしている。		職員全員が他施設の状況など見に行くことで、交流を持ち、互いの質の向上を出来るようにする。
			(外部評価) 運営者はいくつかのグループホームとのネットワークを築いているが、職員間での交流はほとんどない。	※	
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員同士の意見交換の場を作りストレスをためないようにしている。親睦会を開き、個々的にはあってもストレス発散の場を作っている。		意見交換の場を多く持つことで、ストレスを感じることなく、いい雰囲気を保てる職場作りを心掛ける。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の個性をみつつ、職員のことを考え働きやすい職場が保たれており、職員同士が向上心を持っていけるようになされている。		より以上向上心を持ち、仕事ができるよう心がけている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居時は訪室を多くし、コミュニケーションを計り、徐々に日々の生活の会話の中から困っていることなど、聞きだせるようにしている。		細部における聞き取りが出来るよう心掛ける。言葉ひとつの聞き取りも大事に考え、受け止められるようにしていく。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ホームの代表と面会し、聞き取りした上で、生活情報などは職員が再度聞き取りを行うようにしている。		家族が思うことも真意に受け止め本人だけではなく、家族の気持ちを大事に思うことで、いい信頼関係を保てるようにしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 代表者が面会時確認をしたうえで支援方法を考え対応をしている。		あらゆるサービスを利用を理解し対応できるようにしておく。そのためには、自分自身のスキルアップをする必要あり。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用者が徐々に馴れるように、面接の時見学をしたうえで入居して頂けるようにしているが、すべての人ではない。 (外部評価) 円滑なサービス利用のため、入居前に本人・家族を訪問し、見学をすすめ、安心・納得してもらってから入居に移行するよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員だけの思いだけではなく、利用者本位であるよう支援し、言葉使いだけではなく様々なことに注意をしながら生活をして頂いている。 (外部評価) 職員の優しさ・誠実さ・思いやりが利用者に伝わり、人生の先輩として経験豊富な利用者から生活の知恵など教えてもらう場面が多々ある。歌を一緒に口ずさんだり、明るい笑顔から元気をもらっている。		利用者本位の生活が保たれ、利用者職員と共に笑ってられる生活を送れるよう今後も支援させて頂く。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者と同様に家族も大切な存在であるととらえ、どちらも一方的にならぬような支援をさせて頂くために、努力が必要とされる。	※	いつでも家族の思いや言葉、考えを共に分かち合えるような関係を築いていく必要がある。家族それぞれの思いがあるためなじみの職員をつくることで話しやすい関係をつくっていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時、体調や生活についてお話をさせて頂いている。必要時は、電話でお話をさせてもらい、現状をお知らせしている。希望をお伝えしたり、会いに来てもらえるよう働きかけているが家族の都合もあるためスムーズにいかないときもある。	※	本人の希望と家族の希望、相互の希望が叶えられるよう支援する。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 覚えていた限りのお店や会いたい人に連絡をとるようにしたり、お店には足を運ぶようにしている。		訴えがあれば対応できるようにする。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士助け合ったりお話をされる時には、橋渡しをできるような支援を行っている。		今後も継続できるよう心がける。入居者1人1人ずつからでも、関わりを持てるように支援する。
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所後、入院された方に関してはお見舞いに行かせてもらい、その際家族の方とお話をさせて頂いている。		その後の連絡を取るについては、ホームで検討中であり、今後の課題として取組みをしていくよう考えている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人のペースや生活の流れをくずすことなくホームでの生活をして頂けるよう支援している生命に危険があること以外は自由な生活をして頂けるよう心掛けている。 (外部評価) 利用者同士の会話や、職員と交わす会話の中から思いや意向を把握することに努め、把握した情報を職員間で共有して介護計画にも活かしている。家族からは面会時等に情報を得られるよう、話しやすい雰囲気づくりに努めている。		生活をする中でのホームでの制限はあるが、他は各自の生活が送れるように支援するように努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時聞き取りをし、日々の生活の中で生活の中で生活へきなど見るようにしている。家族への聞き取りの中で、大事な情報はケース記録に残すようにしているが、不十分である。	※	詳しく聞き取り、新たな情報を多く得られるような働きかけが必要と思われる。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 留意して欲しいことなどは、記録や申し送りノートに残すようにしており、体調の変化などは、各自の連絡法、申し送りにて全員に伝わるようにしている。		スムーズな申し送りを今後も心掛ける。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ユニット会議で話し合いをし、様々な意見を出したうえで、ケアプランを作成している。本人の意向も取りいれているが、全員ではないが家族の意見や意向を取り入れ不十分である、 <hr/> (外部評価) ユニット会議で職員の気づきと重ねあわせながら作成している。生活の中で得られた気づきや意見、利用者や家族の要望を聞きながら、利用者本位の介護計画を作成している。	※	家族の意見や意向を取り入れながらケアプランに反映させていくようにしていく。各職種から意見をとりいれ、充実したケアプランを作成する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 変更、変化があったことは、ケアプランではなく日々の対応にて解決しているため見直しをすることは少ない。 <hr/> (外部評価) 入居後、2週間で見直しを行っている。その後は3か月を目安に見直ししている。介護度が変わったり状態が変化した時には、その都度検討し、見直している。家族の要望も大切なポイントとして捉えている。		その度の対応により、問題解決をしているため、見直しは少ないがケアプランへも反映することがあれば計画の見直しも必要であると考え。利用者、スタッフの意見も取り入れ、見直しも検討していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録、申し送りにて気づきや思うことをユニット会議で話し合いを行ない、ケアプランへ反映している。が記録が少し不十分なところをみられる。	※	もう少し記録を充実させ、誰が見ても分かるような状態にしておきたい。日々の記録が反映できるように心掛ける。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 希望に対して、いつでも叶えられるように状況のは把握をと、提供の必要性を考え対応している。 (外部評価) 同法人が、ホームに併設してデイサービス事業を展開している。特別な外出支援として墓参りや観劇などにも前向きに柔軟に支援できるよう努力している。		いつでも柔軟に行動が出来るよう、希望を叶えられるように対応支援していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進委員会や地域との交流、防災訓練への参加により、顔を覚えて頂き協力たいせいがとれるようにしている。		今後も継続する。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向を取り入れ、連絡をとることはあるが、他のサービスを利用された利用者は、まだおられない。		今後サービス利用されることがあれば、柔軟な対応をしていく。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) おもにホームの代表者がセンターとの架け橋をなっており、連携、協働できる体制をつくっている。		その人にとっていい方法や支援をセンターと話し合ったいえで提供できるようにしておく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 提携病院がある24h対応で受診往診ができるようになっている。 (外部評価) 協力医療機関の訪問診療が毎日ある。利用者の主治医または協力医療機関において必要な治療等が受けられるよう支援することを利用者・家族に説明し、同意を得ている。		継続し医療との連携をはかる24時間対応のためいつでも連絡できるため最大限活用する。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 他科病院の受診へいつでも行ける状態にあり家族の希望、本人の体調に合わせて受診できるようになっている。		希望を取り入れいつでも叶えられるような、体制にしておく。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 提携病院の看護師が訪問に来てくれた際に、相談しており、いつでも体調についての報告をすることができる。24h対応。		43に同じ。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 提携病院にも入院施設があり、入院した際は早期退院に向けて話し合いをすることができる。提携体制はしっかり出来ておりいろんな場合に備えている。		体調管理、健康維持に努め悪くなったときもすぐ回復できるように日頃からの健康管理が必要である。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 家族の希望、本人の意志の確認をするための書類を作成している。希望を取り署名押印をして頂いている。提携病院もあり。 (外部評価) ターミナルケアの指針を作成しており、ターミナルケアについて十分な説明を行い、同意を得ている。現在ターミナルの段階にある方がいるが、協力医・看護師等と連携を取り、家族にも確認を取りながら落ち着いて取り組んでいる。		希望意志を取り入れ、その人にとってどのような終末期を迎えたいのか迎えて欲しいのかを全員でわかりあい協力していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 提携病院と連携し、自分達その人にとってどこまでして欲しいのかの希望を叶える為、職員が団結し介護しているが本当に希望されていることを、見極めることが難しい。	※	その人にとっての生き方、ホームでのあり方を見極め、自分たちに出来る事を最大限に発揮できるように努力していく。 希望されていることは何なのか、まず見極める。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 管理者及び代表者と検討し、本人にとっての住みよい住環境を提供している。		今後も継続して行い、多種多様なサービスを理解し提供をしなくてはならない。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライドを傷つけないような声掛け、職員の一方的な言葉掛けにならないように注意をしているが、本人にとっての嫌な言葉や対応をしていないか、考えなければならない状況がみられる時もある。 (外部評価) 契約書に権利・秘密保持を示し、責任を確約して遵守している。同意書には署名、捺印をいただいている。利用者一人ひとりの尊厳や誇りを大切にしている取り組みが見られる。	※	職員一人ひとりが、言葉・対応に注意し心に留めておかなければならない。そのためには、お互いが注意できる関係になりその雰囲気作りをしなければならない。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者自身の声をよく聞き、押し付けでなく意志を引き出せるような声掛け、支援を行っているが、一方的になることもある。	※	自分たちだけの都合にならぬようゆっくりと、ゆったりとした気持ちで仕事をし、利用者一人ひとりの声に耳を傾け聴く。 希望をかなえる為の支援、意思表示・自己決定できるような働きかけをしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事の時間や入浴の時間等、時間の決まりがあること以外については、その人のペースに合わせて生活をして頂いている。 (外部評価) ターミナルであっても利用者のペースを尊重し、体調に配慮しながら関わっている。できることは何か、援助すればできることは何か、などについて職員がその人らしさを把握したうえで見守り支援している。	※	その人らしい生活ペースに合わせて、生活して頂くよう今後も支援させて頂く。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 希望される美容室に行くようにしている。		今後も継続していく。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者の能力に合わせて出来る事をして頂いている。片づけが、中心になってしまっているのもう少し全体的に楽しく食事をして頂ける支援をする必要がある。 (外部評価) 「今日の食事も美味しい」などと話しながら、自分の故郷の話、昔話と楽しい会話が続いている。準備や片付けも1つの流れとして自然に行っている。		能力に応じて出来るようなことから、全員に少しずつでも食事での楽しみを見つけるよう努めていく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 体のことを考えて負担にならない程度に、取り入れている。好きなおやつ、好みのものを買い物に行った際購入している。		今後も身体の負担にならないように取り入れるようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを記録より読み取り無理なく排泄できるようにしている。失敗なく排泄行動パターンを知り支援できるようにしている。		プライドを傷つけずパターンを知ることで排泄支援がスムーズできるよう心掛けている。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴をスムーズに出来るよう声掛けにより気持ちの切り替えをしてもらえるようにしているが、タイミングをはずしてしまうこともあり、日が開いたり都合で進めてしまうこともある。 (外部評価) 「今日は息子さんの方が来られますよ」、「お医者さんが来られる日ですよ」など、タイミングを見計らってスムーズに心地良く入浴できるよう声かけにも配慮しながら支援している。一週間に2回は入浴できるよう支援している。		入浴がスムーズに出来るようタイミングのつかみ方や声掛けの仕方を職員が統一できるようにする。気持ちの切り替えをし楽しく入浴が出来るように支援していく。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 安眠できるよう昼に活動量を増やし心地よく疲れ睡眠につなげている休息も適度にできるようにしているが全員とはいえない現状にある。		安眠できるように快適な空間を作ると共に日中の活動量を確保していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 楽しみや気晴らしについてはケアプランに記載し、生活歴を反映したものになっているが家族からその人の生活歴や趣味を教えて頂き反映させていく必要がある。 (外部評価) 懐かしい音楽で盛り上がることや風船バレーで汗をかくこともある。各居室の掃除やモップがけも楽しみながらしている。男性利用者にゴミ出しをお願いするなど役割分担している。		いろいろな角度からその人を捕らえ楽しみや趣味を見つけていくように努める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人の小口お小遣いとしてお預かりし買い物時、外出時いつでも使えるようにしている。		本人さんが持ちたいと希望があれば家族さんの同意の下管理して頂き金銭面の管理で自己能力を高める。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気のいい日など散歩に出掛けたりドライブなど季節を感じられるところなどへの外出をしている。外食へ出掛けたり買い物に出かける。 (外部評価) 総合公園に出かけてかざぐるまを作り、居室に飾っている。日常的な散歩では、近所の方と挨拶を交わすことも多い。道の駅などへのドライブ、ショッピングセンターへの買い物にも出かけ、気分転換を図っている。		外へ出たいとき待っていただくこともなくスムーズに対応できるようにしていく。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 全体での外出、グループでの外出、個人的な外出など家族の協力をもとにいきたいところへの外出を支援している。		今以上に外に出る機会を設け四季を感じたり、外に楽しみをみつけいきいきとした生活を送っていただけるよう取り組む。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話手紙は24時間いつでも外部内部問わず連絡が出来るようになっている。		今後も続けていく。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問して頂けるようにリビング、クツログスペースにて楽しい一時を過ぎて頂けるよう工夫している。		一人一人の行動の把握スタッフ同士の位置確認を声に出して実行している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) (外部評価) 自由に出入りできるよう鍵はかけていない。外出傾向のある利用者の場合は一緒に出かけ、納得いくまで気長に対応するなど、安心安全に過ごせるよう考えている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価)		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価)		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価)		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 講習を受けている。 勉強会を開き対応できるようにしている。		日々の最新を学び訓練して向上し、もしものときに備えておく。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 社長さんが防災資格を持っているのでスタッフに伝えていく。 (外部評価) 運営者は防火管理責任者と防災士の資格を有している。消防署とも密に連絡が取れている。年に1回の町内自主防災会にはホームも参加し、改善点・反省点を学んでいる。	※	日頃より注意し心掛けていけるようにする。 夜間も想定しての非常災害訓練を、専門家のアドバイスを仰ぎながら早急を実施することを望む。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 変化があった時のリスクをわかりやすく家族さんに説明する。		リスクに対応していく為に必要なものを話し、協力をお願いしていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 医師との連携が取れているため早期発見と広がりをくい止めている。		即対応してもらうために連携をとっており、気にかかる事はあるときは必ず聞く。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を確認し、それで解らないときは先生に聞き把握している。		変化があれば即、医師に連絡し対応している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多く取っていただいたり、食物繊維、野菜ジュースで自然排便が出来るよう取り組んでいる。		どうしてもでないときのみ、医師処方による緩下剤にて対応している。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 起床時、食後に口腔ケアを行っている。寝る前には入れ歯をお預かりしポリドントなどで清潔を保つ。		ほぼ全員の口腔ケアを行っているが、完全を目指して取り組みをしていく。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は全員で食べて頂ける様に工夫し水分も多くとっていただけるよう、お茶だけではなく好きな飲み物などを交えて楽しく摂取していただいている。 (外部評価) 一人ひとりの食事記録をとっている。嗜好を把握し、季節感のあるバランスの取れた献立をたてている。水分量が不足しないよう気をつけている。		必要な人に関しては水分量をはかり、一日の摂取量を把握し足りないときは声掛けを行っている。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症マニュアルを表示し外から帰ったら、手洗いうがいの徹底をしている。		手すりいすテーブル床の掃除時、塩素系の洗剤をしようしている。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用品の消毒を行い食品においては保存方法を守り、使用している。		生物は鮮度がいいうちに、火を通すものはしっかりと日を入れてその都度できたてを提供する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りに物をごちゃごちゃおかず、整頓し安全に利用できるようにしている。		明るく綺麗に掃除整頓を行い、気持ちい玄関を作っていく。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 浴室トイレなどは、プライバシーを守る空間になっており共用空間についてはゆっくりくつろげるようにしている。 (外部評価) 昼間利用者が和む居間は吹き抜けになっていて、明るく開放的である。畳の部屋でくつろぐこともできる。調理の匂いや音を感じながら生活できる。右利き、左利きと、どちらの方も使いやすいよう配慮したトイレがある。		共用スペースに障害物をおかず広々とゆっくりすごしていただけるようにしている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) くつろげるスペースを作っており、小さな空間であるが居場所作りをしている。		寛ぎ空間の確保、ゆっくり、ゆったり出来る時間の確保に努める。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) なじみのものであったり、写真、日用品であったり持ちこみをして頂きその人が暮らし手元にあつたものはすぐ手元にある状態にしている。 (外部評価) 家族と一緒に過ごした写真が飾られ、思い出話に花が咲く。好みの洋服等も家族の協力を得て用意されている。一つひとつがその人にとって宝物であることがうかがえる居室となっている。		必要であるものは持って来て頂き本人の希望も叶えられるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 朝の空気の入替え、掃除居室より共用空間への移動時などこまめに窓を開けている。		湿度計温度計などを置き、変動に応じて対応している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり、滑り止め、フラットなフロア自立できるように設置されている。		電気に紐をつけたり、危険を予測されるものをしまって居室内を広く自由に使用できるよう心掛けている。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 混乱時には声掛けし、自立を促すような声掛けをしてやる気を復活していただける雰囲気づくり。		失敗時など自尊心を傷つけないようにすばやく片付けて声掛けをしている。 騒がない。
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダがフラットになっているため、外に出て外気に触れられるようになっている。		活動は、少ないものの今後増やしていけるよう考えていきたいと思っています。 日向ぼっこ豆まき、お茶会など。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	昔の生活習慣をとりいれ、ケアプランに反映させ今望んでいる暮らしに近づけるようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつ時午後のひと時にいろいろな話をしたり広告、旅行パンフレットなどを用いながらゆったりとした、時間を送っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	危険がない限り利用者さんのペースにて、すごしていただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の対応にて踊られたり歌をうたったり冗談を交えた話をしてくださり生き生きとした面が見られている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	希望に応じて個別にてできている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	医療と連携をとり健康管理はされている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	安心して、暮らして頂けるよう支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	来所が少ない家族さんには、手紙、電話にて来所される家族さんには直接話をし対応している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	昔馴染みの会った方などの来所され楽しいひと時を過ごされている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域のかたがたにグループホームとはどういうところと理解されてきている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間でのコミュニケーションに偏りがある為。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個人個人の希望にそって生活をして頂けていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族さんの意見を取り入れ満足させて頂けている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

入居者一人ひとりの能力を職員全員で把握し、残存機能が衰えないように出来る限り見守り・声掛けで支援している。